非核・いしかわ

2022 年 8 月 20 日　月刊第 289 号

〒920-0848 金沢市京町 28-8　石川民医連労働組合気付
非核の政府を求める石川の会
TEL 076-251-0014　FAX 076-251-3930
http://hikakuishikawa.com/

非核五項目
① 全人類共通の課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する
③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

核兵器禁止条約の署名は 86 か国、批准は 66 か国（8 月 15 日現在）

1 面　原水爆禁止世界大会・参加報告　新井田義弘
3 面　７３１部隊と石井四郎の金沢人脈　古畑　徹
4 面　ウクライナ侵攻から平和を考える　池内　了
5 面　劇映画「伊藤千代子の生涯」県内上映始まる　堀井三吉
6 面　＜会員エッセー＞ 遠藤織枝著「中国の女文字」を読んで　相沢まり子
7 面　＜独標＞ 過去からの響きを未来へ ―音楽と時代性―　山越茂樹
8 面　石川の山めぐり　吉沢京子
　　絵手紙コーナー　誉田裕子

【参加報告】

核兵器は絶滅だけを目的とした『悪魔の兵器』
「核兵器のない世界」切り拓く原水禁世界大会

新井田義弘

今年の原水禁世界大会・広島（八月四日～六日）は、核兵器超大国ロシアによるウクライナ侵略と核兵器使用の威嚇という歴史の大逆流のもと、核兵器禁止条約第一回締約国会議（六月二一日～二三日）が「核兵器のない世界」への前進を示すなかで、ＮＰＴ（核不拡散条約）再検討会議（八月一日～二六日）とほぼ同時に開催された。「核兵器」が議論の中心だけに、被爆地広島での三年ぶりのリアル開催の原水禁世界大会は世界の注目を集めた。しかし新型コロナの蔓延の影響で現地参加者は一六〇〇人。石川県代表団は四人にとどまったのは残念だった。

「広島デー」の６日、新婦人の皆さんが壇上に

ＮＰＴ再検討会議にも世界大会参加者の声届ける

このタイミングを生かすべく、日本原水協から派遣された笠井亮衆院議員がＮＰＴ再検討会議のＮＧＯセッションで世界大会について報告。核兵器国が核抑止力に固執していることは「理性の崩壊であり、その無法が許されるなら不拡散の枠組みも完全に崩壊する」と強調、核使用と威嚇の非難・放棄の宣言、核軍備縮小撤廃の交

今夏の集中豪雨で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。
猛暑の中ボランティアに駆けつけられているみなさんに敬意を表します。
非核の政府を求める石川の会

花鳥風月

私たちの西暦二〇二〇年代までの世界は、長いといえば長いが、現生人類の歴史から見れば、『ユートピア』（トマス・モア）に描かれた「資本の本源的蓄積」の時代から、現代にいたる資本主義経済社会といえども、ほんの一瞬の出来事だろう▼金沢は私が七八年間暮らした街。季刊『コスモス』「わがまち探訪」⑰『百万石まつり』に思う」にも述べたように、前田利家が入城した頃（天正一一年・一五八三年）、金沢は「百姓の持ちたる国」で一〇〇年前から寺内町が成立。利家は一向宗門徒が建立した「金沢御堂」へ入城＝入場したのであった。浅井茂人氏は、長享一揆五〇〇年目の記念に、著書『一向一揆百年史』で、「一人でも多くの人々に一向一揆の歴史を知ってもらいたい」と語っておられた▼また『城下町金沢』の著者田中喜男氏は「旧金大の二の丸御殿、極楽橋から本丸あたり（今のテニスコートを見下ろすところ）が「金沢御坊」でその下に寺内町があった。これが金沢の最初のものと思っていたが、もうひとつ河原町という漂泊の人々による都市の核があった」（『田中喜男先生を偲んで』拙著）と述べられる。こうした先賢の教えに学び、あすを構想したい。（こ）

涉義務を定めたＮＰＴ第六条や過去の合意の履行、核兵器禁止条約をＮＰＴ履行の努力として尊重することなどを核保有国に求めた。

さらに、東アジアに関しても「軍事対軍事の対決ではなく、軍拡や核兵器依存の悪循環から抜け出して理性と外交の力でこそ解決に進める」と訴えた。

核保有国へのメッセージ発信

「広島デー集会」（六日）で確認した「広島宣言」は、核兵器保有国に対し、第六条の核軍縮交渉義務や「核兵器のない世界」実現の誓約に「背を向けるばかりか、核兵器の近代化や核使用政策の強化を進めている」と批判。田上富久・長崎市長は「長崎平和宣言」で、核兵器保有国に「核軍縮の具体的プロセス」を示すように求めた。国連のアントニオ・グテレス事務総長も「核兵器の先制不使用」を約束せよと広島の平和式典で表明した。

岸田首相の『異常な』姿勢に驚きと怒り

岸田文雄首相は、広島と長崎の式典で、核兵器禁止条約やＮＰＴの核保有国の義務に一言も触れなかった。被爆者を前にしてのその態度には〝人間性の欠如〟すら感じる。

日本共産党の志位和夫委員長は、世界大会でのあいさつで、「核兵器の非人道性を体験した日本の政府ならば、『核抑止力論』という呪縛を断ち切り、条約参加を決断すべきだ」と強調した。同じ米国の「核の傘」下にあるドイツやベルギー、ノルウェーなどが締約国会議にオブザーバー参加したのと比べても異常だといわねばならない。

こういう岸田首相の発言に対して、核兵器廃絶国際キャンペーン（ＩＣＡＮ）事務局長のベアトリス・フィンさんが、「広島や長崎で行われた悪事を他都市に行うことを容認するのか。核兵器を使うという脅しに参加することは許されない」と述べて核兵器禁止条約への参加を迫ったのは大変印象的だった。

平和式典や世界大会でのあいさつや発言に勇気と希望もらう

平和式典でグテレス国連事務総長は、「冷戦時代、紙一重で免れてきた人類絶滅の危機の数々から…何を学んできたのかを考えなければなりません…核兵器保有国が、核戦争の可能性を認めることは断じて容認できません。」と訴え、六月の核兵器禁止条約第一回締約国会議が「終末兵器のない世界に向けたロードマップを策定した」ことを『希望の光』と讃えた。締約国会議議長のアレクサンダー・クメント大使は世界大会あいさつで「より広範な社会的階層を動員することが重要だ」と呼びかけた。

「広島宣言」は、「禁止条約を力に市民社会と諸政府との共同を発展させるならば、『核兵器のない世界』への展望をひらくことは可能だ」と強調し、核兵器禁止条約が国際法として確立し、多数の国々が支持していることは「もはや動かせない現実である」と強調した。

ベルギー「平和」グループのルド・デブラバンデルさんは、広島デーで、「（七党連立の）新政府は、米国の『核共有国』であることから禁止条約を核軍縮の重要な手段になることを認めるのを拒否していました。しかし政府は平和運動の圧力を受け、条約の第一回締約国会議にオブザーバー参加しました」と発言。

政府が態度を変えざるを得ないほどの〝平和運動の圧力〟を、日本でこそかけなければと、思いました。

（原水爆禁止石川県協議会事務局長）

石川県から世界大会に参加した皆さん

【講演要旨】

七三一部隊と石井四郎の金沢人脈

金沢大学教授　古畑 徹

講師の古畑徹さん

はじめに、講師の古畑さんは私の専門は渤海史研究だが、七三一部隊調査に関わったのは、市民運動仲間と立ち上げた一九九三年「いしかわ七三一部隊展」実行委員会への参加に始まり、一九九八年から「金沢大学五〇年史」編纂委員として戦時体制下の前身各校（四高、旧制金沢医大等）を担当、その時委員長から「事実が出てきたら載せていく」との方針を聞かされ医学部倉庫の資料を調べていくうちに新史料を発見、『五〇年史・通史編』や学会誌の論文とした。

二〇〇六年には金沢大学サテライトプラザの公開講座で講義もしたが、その後中断、この機会に若干の追加調査をしたと自己紹介。「なぜ七三一部隊は金沢と縁が深いのかという疑問への答えをよりクリアーに、そして当時の大学が時局の中で軍部とのつながりを求めるようになっていく姿が見えてくるが、今の学問・大学のあり方を考える材料にしたい」と主旨を話されました。

七三一部隊と金沢のつながりを示す事実の整理

七三一部隊の重要人物に占める割合が四高・金沢医科大出身者が多いとされている。**石井四郎**が一九三二年に立ち上げた陸軍軍医学校・防疫研究室は「軍と民間のネットワークの結節点とする石井機関」として、相互の人事交流の中で研究テーマを共有し、その人体実験場としての存在が明らかになっている。

また嘱託研究者としての**戸田正三**（京都帝国大医学部教授・医学部長、後の金沢大学初代学長）が果たした役割、**谷友次**（金沢医大学長、石井の四高同期）が弟子である**二木秀雄**らを陸軍技師として部隊へ送り出している事実、戸田は一九五二年の日本学術会議総会で「細菌兵器使用禁止に関するジュネーブ条約批准を国会に申し入れる」決議に反対して不採択させているが、部隊を庇ったというより医学界全体の権益を守ろうとしたものと評されている。その他様々に論及されてきたが、今回はそのうち一九四一年石井四郎が金沢医科大での日本文化講義を担当した経過と一九四三年石川太刀雄が病理学教授として赴任した経過に焦点を当ててみたい。

石井四郎と日本文化講義とその周辺

「日本文化講義とは」の説明のあと、現存資料が少ない中で貴重な記録が金沢大学資料館に残されていた。もとは別人物での講義予定であったものが四月になって出講不能と分かり金沢医科大で検討、谷友次が石井を推薦し、大学が了承、弟子の二木秀雄が交渉して実現した。

この講演・講義は前日の京都と金沢だけで行われたもので「大陸に於ける防疫に就いて」と題する講演要旨が残っている。具体的内容に関しては当時京都大医学部に在籍していた日野原重明が「石井四郎軍医中将が現場での捕虜待遇の様子を収めた写真フィルムを持って母校を訪れました。・・・捕虜兵の生体実験が映っていました。見るに耐えない行動を映した映像の記憶に今でも鳥肌が立ちます」と二〇〇五年に記している。

金沢での出席率は他と比べるとやや低く、台湾・朝鮮・中国出身者は出席を認められていないがその理由は上記の内容によるもの。事後の礼状案三通と返電が残っているが、これらは医学界がその存在を周知していた証拠と考えられている。

もう一点、一九四〇年一一月に大里俊吾（金沢医科大第二内科学教授）が杉山繁雄（同病理学教授・兼京大教授）と一緒に満州に招かれた時、「細菌戦

県庁1階展示スペースで開かれた731部隊パネル展

のことを聞かされると同時に、ここでも注目すべき事柄も見せられたが記述を控える」と見聞記録に記している。

「語れない秘密を共有」したとして石井の強い意向によって嘱託就任を承諾させられたと推測される。七三一部隊拡大期に当たっており、そのための石井の強引な手法はしばしば逆効果になったと指摘されているが、この場合にその傾向が見える。

石川太刀雄の金沢医大赴任

金沢大学資料館には金沢医大教授会記録が残されている。杉山繁雄病理学教授は自身の京大専任化による後任選考にあたって、京大医学部と軍部の密接な関係を紹介し、金沢医大に軍部とつながって発展すべきことを提案している。

一九四三年七月の辞令交付に至る様々な経過はあるが、石川の七三一部隊における重要性が指摘される。パイプ役の谷友次の存在は大きいが石井との個人的関係であって軍部そのものとではなく、石川に軍部とのパイプ役が期待されていた。就任後石川は期待に応える役割を果たしていると評価できる。そこには国による「科学動員」政策の中で軍に批判的で距離を置いてきた金沢医科大が次第に軍へと接近する姿が見えてくる。

おわりに、七三一部隊を追うときに金沢だけが頻出する理由は何か。

金沢医大に組織的関与の形跡は見られないとすると、谷友次と石井との個人的関係（四高で同級）が重要で、そこから二木・石川へと発展していく。

講師の古畑さんはこれらの歴史的経過は、防衛省による研究開発費補助金制度「安全保障技術研究推進制度」の問題、日本学術会議任命拒否問題などを考える材料となる。「社会実装を求められる現在の大学の研究はひとつ間違えると戦前の徹を踏みかねない危うさを伴っている。負の歴史と正面から向き合うことは、同じことを繰り返さないという意志の表明であり、真の意味で未来志向である」と講演を結ばれた。

（まとめ　池田治夫）

◎七月三〇日（土）午後、石川県庁一階に特設された展示コーナーで開催された「平和のねがいと戦争」パネル展（七月二七日～八月一日、同実行委員会主催）の記念講演が持たれました。講師は古畑徹金沢大学教授、参加者は予測を大きく上回って一二〇名でした。

【講演要旨】

ウクライナ侵攻から平和を考える
―世界史の順行と逆行―

名古屋大学名誉教授　池内　了

いま世界が採るべき方策を語る池内了さん

池内了さん（名古屋大学名誉教授）の講演会が戦争をさせない石川の主催で七月三一日、金沢歌劇座二階大集会室で開催されました。

宇宙論の研究者である池内さんは、地球から見て火星の動きが順行と逆行を繰り返しているように見えるが、巨視的には惑星として共に順行している。世界史で、戦争と野蛮、非戦と戦争も順行と逆行を繰り返しているが、長期的には世界は変わっているとの基本的視点を展開されました。

戦争の歴史で、科学技術の使用が進むに伴い、次々と残酷な手段を禁止する条約が成立した（ジュネーブ議定書、生物兵器禁止条約、化学兵器禁止条約）。戦争と平和の逆行と順行は、戦争の度に戦争に頼らないで紛争を解決する道を拓いてきた（国際連盟、国際連合）。この順行の流れの中で日本国憲法の平和主義が生まれ、日本が決して侵略国家にならない、平和の中で生きていくことを宣言した。

戦後、大国間の戦争は回避されて来たが、軍事大国（米、ロ、中国）は、軍拡競争を牽引し多くの小国への侵略と威圧で、逆行の道を歩んでいる。しかし、核保有五カ国は、国際世論に追い詰められ「核戦争を防ぎ、軍拡競争と核の拡散を行わない」共同声明を出さざるを得なくなっている。

ロシアのウクライナ侵略は、世界史の逆行であり、第三次世界大戦、核戦争、国連の限界を内包している。この行方には三つの方向（ロシア又はウクライナの敗北、ウクライナの停戦受け入れ＝白旗）が想定されるが、多くの批判があるが白旗路線を考えている。それは、命に勝る正義なしとの立場からである。

現在ウクライナにとって、国権主義か私権主義かが問われており、国家による戦争遂行の強制と基本的人権の

対立軸は報道されていない。世界が採るべき方策は、国連総会決議を最高の意思決定として、安全保障理事会を上回る拘束力を持つ国連改革であり、ロシアとウクライナに即時停戦を説得する決議と核兵器先制使用禁止決議であろう。

戦後、侵略をしない国として信頼を得て来た日本は、参議院選挙の結果、日本が侵略する国になりかねない危険が増している。自民党改憲案で自衛隊を軍隊と明記すると、一般刑法と別に軍事法廷や徴兵制の導入が想定される。

大学や研究者が守ってきた「学術は軍事に協力しない」ことが崩されつつある。研究費の貧困を背景に、防衛省安全保障技術研究推進制度による軍事研究が行なわれている。経済安全保障法の下で軍事・機微技術の開発を国が管理する重要技術育成プログラム（五〇〇〇億円）は、四領域（宇宙、海洋、サイバー空間、バイオ）二〇分野の推進計画で、参加する研究者には守秘義務が課せられ、軍事研究を強める施策が進んでいる。

これまでに成立した悪法により民主主義の根幹が危うくなっている。また若者への教育は貧弱で、政治的無関心が助長され、同調圧力や「空気を読む」雰囲気の中で、社会の一体化の共同幻想に陥り、私権の制限すら許容する傾向が見られる。これは、ファシズムに導かれる危険であることを知らなければならない。

個々人の生命、生活、人権を確保することを最優先にして、平和を守る。軍事力に頼れば、却って戦争の危険を増やす。私は「ピカソで平和を守る」と提唱している。文化の満ち溢れた社会にし、非武装都市宣言で平和を守る、そのためにも、慌てないで諦めずに粘り強く平和主義、国民主権、基本的人権の尊重を主張し続ける必要がある。

講演後の質疑応答で、「科学が軍民共用（デュアルユース）であり、区別できないと考える教員が多い、その対応は？」との質問に、三つの基準（財源＝防衛省か文科省か、応募の目的は何か、公開性が担保されているか）で区別することができると答えられた。

（まとめ　村上清史）

◎池内了先生の講演録画は、戦争をさせない石川の会ＨＰに掲載されており、YouTubeで視聴することができます。

【戦争をさせない石川の会ＨＰ】

http://nomorewar-ishikawa.com/

劇映画『わが青春つきるとも―伊藤千代子の生涯』県内上映運動を開始します！

堀井　三吉

昨年来取り組んできました映画製作・上映を支援する石川の会（略称：映画千代子石川の会）の運動は、一五〇万円の募金を達成し、五月二八日試写会を終えました。九月一〇日の輪島、七尾での上映会を最初に、県内一三会場一九回の上映日程が決まりました。

「全国の会」は桂荘三郎監督の映画製作を支援し、今年三月、映画を完成させ、七月の参議院選挙までの第一次上映運動では全国二〇〇を超える会場で上映会を開催し、三万七千人の方々が鑑賞しています。

映画評論家　石子順（いしこ　じゅん）氏は、「治安維持法と現代」誌・二〇二二年春季号（治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟発行）に寄稿し、次のように論評していますのでその要旨を紹介します。

「この映画は、天皇専制の日本帝国による満州・中国への侵略戦争が迫りつつあるなかで、反戦と主権在民を主張し、民衆の幸せのために戦った伊藤千代子の生涯と、それを支えつつ未来を切り開こうとした人々を描いた理想に燃える映画です。」

一九二五年、大正デモクラシーの運動の高まりの中で、普通選挙法の成立と同時に、稀代の悪法「治安維持法」が制定されました。

一九二八年三月一五日、共産党や民主主義を弾圧する治安維持法の猛威

が襲いかかります。

伊藤千代子（当時二二歳）は、日本共産党中央事務局に所属し、印刷原稿を運んでいたところを待ち伏せしていた特高警察に追われ街頭で逮捕・投獄されました。

治安維持法違反容疑で起訴・拘留され、市ヶ谷刑務所に収監中、拘禁精神病を発症したことにより収容された松沢病院で、一九二九年九月二四日、急性肺炎により二四歳二か月の生涯を閉じました。

「この映画は滅びた治安維持法という悪法を二一世紀にあらためて告発した。治安維持法の犠牲者に何の謝罪、賠償もしない国に対してこれでいいのかと問いつめている。じんとくる結末には現代に生きる人々に伊藤千代子がいたことを忘れるなと呼びかける。」

（「映画千代子石川の会」事務局長）

◎劇映画「わが青春つきるとも―伊藤千代子の生涯」県内上映会チラシを本紙に同封します。

映画「伊藤千代子の生涯」県内上映会

会場	日	曜日	上映時間	上映時間
輪島商工会議所 507会議室	9月10日	土	10:00	14:00
石川県七尾美術館 アートホール	9月10日	土	ー	14:00
野々市フォルテ 小ホール	9月17日	土	ー	14:00
かほく市高松産業文化会館 ホール	9月17日	土	ー	14:00
こまつ芸術劇場うらら 小ホール	9月19日	月・休	ー	14:00
金沢歌劇座 2F大集会室	9月24日	土	10:00	14:00
金沢歌劇座 2F大集会室	9月25日	日	10:00	14:00
津幡町文化会館シグナス 視聴覚ホール	10月1日	土	ー	14:00
コスモアイル羽咋 小ホール（ロトンダ）	10月2日	日	10:00	14:00
アビオシティー加賀 ホール	10月8日	土	ー	14:00
内灘町文化会館 3F多目的ホール	10月9日	日	ー	14:00
白山市松任学習センター 2Fライブシアター	10月15日	土	10:00	14:00
石川県立美術館 ホール	11月23日	水・休	10:00	14:00

講演会のご案内

「伊藤千代子が問いかけるもの」

ワタナベ・コウさん

『漫画　伊藤千代子の青春』著者

9月3日(土)13:30～15:00

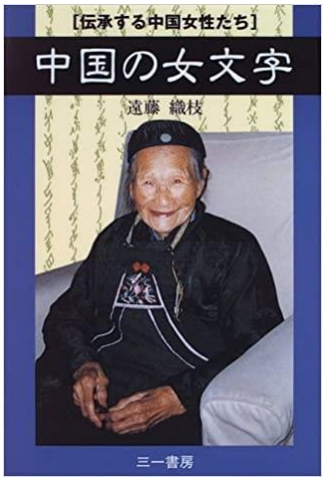
ITビジネスプラザ武蔵 6階交流室

主催　映画千代子石川の会

非核石川の会リレーエッセー

遠藤織枝著『中国の女文字―伝承する中国女性たち』を読んで

相沢まり子



これは、たまたま手にした本です。パラパラページをめくると、その女文字の流れるような線の美しさに心が奪われてしまった。

かつて因習として女性に纏足（てんそく）が強いられ、ほとんどの女性は学校教育を受ける機会が与えられなかった時代、湖南省のある地域に、女性から女性へと受け継がれ、男性には読めない不思議な文字があった。

女たちが集まり、布を織り、針仕事や刺繍をし、おしゃべりを楽しむ。古くからこの地方に歌い伝えられた歌を女文字で書き、書きながら歌い、歌いながら復習し、忘れても歌えば思い出す。

どんなにつらい事でも女文字が心を支え、なぐさめる。ハンカチに女文字を刺繍した大切な人へ送る。布の経糸や横糸に対応し、織物や刺繍に向いた形、右上から左下に向かって流れるような美しい曲線となってみる人を魅了する。

教育を受けることのなかった女性が独自の文字を持ち、揺れ動く感情を表現してきた。不運な境遇でもつぶされない強さ、なんでも歌にして歌い、女文字に書き留めた。どんな困難な時でも歌があり、女文字があった。著者は言い切る。驚愕する。この楽天性は敬服に価すると・・・。

そして、一九四四年、湖南省・女文字の中心地へ日本軍がやって来た。この地を侵略した日本軍の残虐行為の数々を、この美しい女文字は書き記す。（川には殺されたたくさんの死体が流れ、女と見ると強姦し、家々の食糧を奪い、村に火を付けた。・・・と）

今日、学校教育は行きわたり、この女文字は消えゆく運命にあるが、しかし、書かれた事実は消えることはない。この本を読み進むにつれて、文化や芸術の果たしてきた重み、その原点に触れる思いがした。

必死に生きる人々に寄り添い、支え、励ます文化・芸術活動は断じて不要不急なものではないと・・・。

詩人会議かなざわ「独標」より

過去からの響きを未来へ
―音楽と時代性―

山腰 茂樹

大学で「クラシカル音楽研究サークル（通称：クラ研）」に入部し、同期の仲間たちの強い感化を受けて、それまで知らなかった、時代の精神を反映した様々な音楽の存在を知るようになった。当時はアメリカのベトナム侵略戦争が激しくなってきた頃で、反戦と平和を求める声が高まっていた。

当時二〇歳代の私は「金沢労音合唱団」に加わり、金沢労音初代運営委員長をされた加賀友禅作家であり作曲家の清藤武二氏（故人）の作品合唱組曲「ベトナム」を歌った。この時心の底から感動した。いわゆる反戦歌ではあるが生々しく戦争を描写することなく、闘いの諸相を美しい旋律で切々と人間愛や雄々しさを歌った作品である。この経験を経て、今までの音楽に対する向き合いが私の中で大きく変わったようだ。

その後、大木正夫作曲「カンタータ人間を返せ」、清瀬保二作曲「無名戦士」、林光作曲「水をください」、細川俊夫作曲「ヒロシマ・声なき声」などを意識的に求めて聴いた。更に、ショスタコーブィチの交響曲第七番「レニングラード」と交響曲第八番、ベンデレッキ「広島の犠牲者のための哀歌」、フレデリック・ジェフスキー「不屈の民変奏曲」なども聴き、こうした作品はその時代の深層を抉り、人間の尊厳を歌い上げていると感じた。ピカソの「ゲルニカ」を見たような強烈な印象を持った。（友人の西継一氏は、バルトーク「ヴァイオリン協奏曲」は音楽のゲルニカだと指摘する。）

戦争や闘いをテーマにした音楽は多い。二〇一二年六月一七日、石川県立音楽堂コンサートホールで池辺晋一郎作曲カンタータ「悪魔の飽食」が作曲者の指揮、オーケストラ・アンサンブル金沢と三〇〇名を超える合唱団で演奏された。「悪魔の飽食」の作家・森村誠一氏も来館し、感動的な舞台であった。

音楽に反戦や平和を歌いこむことは音楽の本筋ではない、との考えがあるが、それは正しくないと思う。もともと音楽や諸芸術には平和を希求する心を育む力があり、時代の変遷はあっても、思想としてのヒューマニズムの精神が基盤にあれば、その時代に痛恨の思いで生まれた音楽は極めて深い価値があると思う。

二月にロシアによるウクライナ侵略が開始された。言語道断の暴挙と思う。二一世紀も前世紀と変わらず「戦争の世紀」になるのかと悲しく悔しい思いが溢れる。この機に「敵基地先制攻撃」を声高に叫ぶ人々がいる。真珠湾を攻撃した日本が無惨な敗戦を迎えたことを忘れたのか。全面戦争を招き、日本が再び戦場になり、敗北することが明らかなことを想像できない無神経に怒りを覚える。こうした時代にこそ改めて前述の音楽を聴きなおしてみたい。

編集室より

◎ロシアによるウクライナ侵略戦争は半年が経過したが残念ながら先が見えない。戦争と深く結びつくのが「国家」や「クニ」という概念だが、これには注意が必要だ。**〝この両者の概念としての違いを述べよ〟**と問われた場合、答えるのは容易ではない。ウイキペディアによると「国家とは、一定の領土と国民と排他的な統治組織とを供えた政治共同体のことを指す」とあるが、クニに関しては混同して書かれている。昔はその概念は小さく、「ふるさと」くらいの意味で、ノスタルジアとむしろ結びつく。

それがやがて主権・領域・国民の三要素により国家が成立し、権力者は「我々」と言い出す。それは「我々ではない人」に対して線を引き、さらに〝争って平和を勝ち取る〟と言い出し、詰まるところ戦争に行きつく。

日本は敗戦後、憲法九条という宝物をやっと手にすることができた。今生きている人たちは、その崇高な理想主義に一歩でも近づけたであろうか。

もし、先人にいただいた文明の先駆者としての宝物を食い潰して「もう何もないですよ」と次の若い人たちに言うだけなら、恥ずかしく情けない。（中）

石川の山めぐり⑳

口三方岳　1269m　白山市

吉沢 京子

口三方岳（くちさんぽうだけ）への登山口は、白山市セイモアスキー場から直海谷（のみだに）川に沿って上流1・5kmほど先にあります

最初から急坂を登ります。杉林を登って行くと岩が点在する岩屋敷という所に出ます。ここを過ぎて行くと烏帽子山が姿を見せてきます。ミズナラ、ブナの道を進み水場への道を分け、烏帽子山への分岐を左手に分け、ロープ場を越えて行くと「影清の池」が現れます。この池は平家の落人・悪七兵衛景清(＊)が流した涙が溜って出来たという伝説があります。

影清の池からひと登りで、口三方岳山頂です。二等三角点（点名板尾）があります。

山頂からは、白山方面、犀川源流や県境の山々、奥獅子吼山や金沢平野、日本海まで望めます。

帰路も同じ道を戻ります。登り三時間、下りで二時間位かゝります。

お花は、カタクリ、イワカガミ、イワナシ、ショウジョウバカマ、ニリンソウ、エンレイソウ、サンカヨウ、ニシキゴロモ、コケイラン、ササユリと次々に咲きます

秋の紅葉も大変美しいです。

【編集部・注】

＊伝説の人「悪七兵衛景清」

謡曲・能・歌舞伎・落語の題材になるほどの人。悪は悪者ではなく、豪の者、強い者の意味で使われています。

口三方岳頂上からの白山方面

口三方岳頂上 二等三角点・点名板尾

オオカメの木　芽吹き

絵手紙コーナー

金沢医療生活協同組合
絵手紙班　誉田 裕子

非核・平和の掲示板

月	日	曜	時	行事予定	会場
8	27	土	15:00	医療・福祉問題研究会総会記念講演／井口克郎さん	金沢市西町・金沢大学サテライト・プラザ＆Zoom
	28	日	13:00	県民教育文化センター　夏の交流研究集会／斉加尚代さん	金沢市富樫3丁目・教育プラザ富樫
9	3	土	13:30	国賠同盟石川県本部・総会記念講演／ワタナベ・コウさん	金沢市武蔵町・ITビジネスプラザ武蔵6階
	10	土	10:00	映画「伊藤千代子の生涯」上映会（2回目　14:00～）	輪島商工会議所 507会議室
	10	土	14:00	映画「伊藤千代子の生涯」上映会	石川県七尾美術館 アートホール
	17	土	14:00	映画「伊藤千代子の生涯」上映会	野々市フォルテ 小ホール
	17	土	14:00	映画「伊藤千代子の生涯」上映会	かほく市高松産業文化会館 ホール
	19	月・休	14:00	映画「伊藤千代子の生涯」上映会	こまつ芸術劇場うらら 小ホール
	24	土	10:00	映画「伊藤千代子の生涯」上映会（2回目　14:00～）	金沢歌劇座 2階大集会室
	24	土	14:30	国連核兵器廃絶デー記念企画・反核医師のつどい／金沢サテライト会場	石川県地場産業振興センター・新館 5階第12研修室&Zoom
	25	日	10:00	映画「伊藤千代子の生涯」上映会（2回目　14:00～）	金沢歌劇座 2階大集会室

＊会報「非核・いしかわ」サポート会員を募集中　　年会費 2,000円